

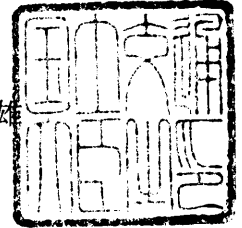


# 認 定 書

国住指第 1813 号  
平成 17 年 11 月 15 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PS060FL-0280
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
ケーブル/ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウールシート充てん/  
床耐火構造/貫通部分(中空床を除く)
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容  
別添の通り

## 1. 構造名

ケーブル/ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウールシート充てん/床耐火構造/貫通部分  
(中空床を除く)

## 2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 円形 (面積) 0.020106 m <sup>2</sup> 以下 (φ160 以下)
占積率 (断面積) (開口部に対するケーブル断面積の総合計の割合)	φ160 以下の場合：23.37%以下 (0.004698 m <sup>2</sup> 以下) φ110 以下の場合：25.76%以下 (0.002448 m <sup>2</sup> 以下) φ 80 以下の場合：24.84%以下 (0.001249 m <sup>2</sup> 以下)
貫通する床の構造等	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) A L C ・床厚 100 以上 (2) コンクリート ・床厚 100 以上 (中空床を除く)

3. 材料構成  
1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

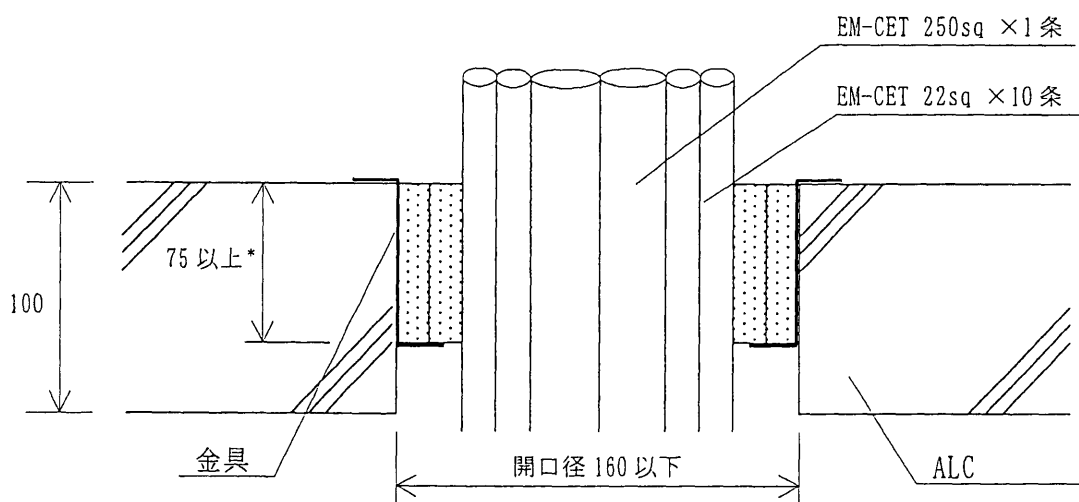
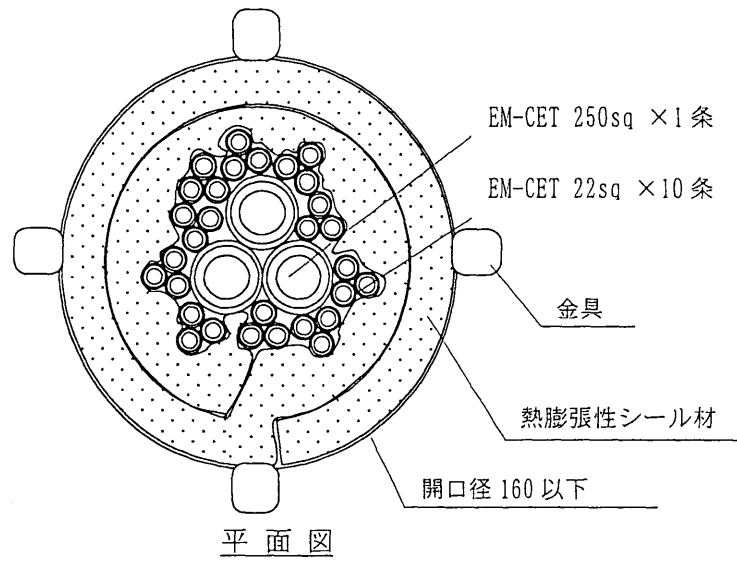
項 目	申 請 構 造
ケーブル	<p>総発熱量</p> <p>φ160 以下の場合 181,118kJ/m 以下 φ110 以下の場合 88,415kJ/m 以下 φ 80 以下の場合 44,319kJ/m 以下</p>
	<p>総導体断面積</p> <p>φ160 以下の場合 0.001410 m<sup>2</sup> 以下 φ110 以下の場合 0.000798 m<sup>2</sup> 以下 φ 80 以下の場合 0.000414 m<sup>2</sup> 以下</p>
	<p>規格 (種類)</p> <p>次の規格のうち、いずれか一仕様とする JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号準拠, 第 4364 号準拠, 第 5381 号準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号準拠, 第 9072 号準拠 TIA/EIA 568A TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号</p>
	<p>外径</p> <p>φ160 以下の場合 より合わせ外径：60 以下 φ110 以下の場合 より合わせ外径：55 以下 φ 80 以下の場合 より合わせ外径：42 以下</p>
	<p>導体断面積</p> <p>φ160 以下の場合 250mm<sup>2</sup> /本以下 φ110 以下の場合 200mm<sup>2</sup> /本以下 φ 80 以下の場合 100mm<sup>2</sup> /本以下</p>
	<p>本数</p> <p>総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下</p>
	<p>導体種類</p> <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維</p>
	<p>絶縁体</p> <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂</p>
<p>シース</p> <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂</p>	

項 目		申 請 構 造	
防 火 措 置 材 料	熱膨張性 シール材	材質	熱膨張性ロックウールシート
		組 成 (質量%)	
		充てん量	φ160 以下の場合 ・寸法 75 以上×24 以上 ・密度 340g/m 以上 φ110 以下の場合 ・寸法 50 以上×21 以上 ・密度 200g/m 以上 φ80 以下の場合 ・寸法 50 以上×21 以上 ・密度 200g/m 以上
	梱包紙	材質	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂 (3) ポリアミド系樹脂
		厚さ	0.55 以下
	金具	材質	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) 熔融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141
		外径	開口径による
		厚さ	1.0 以上

#### 4. 構造説明図

構造例を次に示す。

(寸法単位：mm)



\*：開口径 110 以下の場合は 50 以上

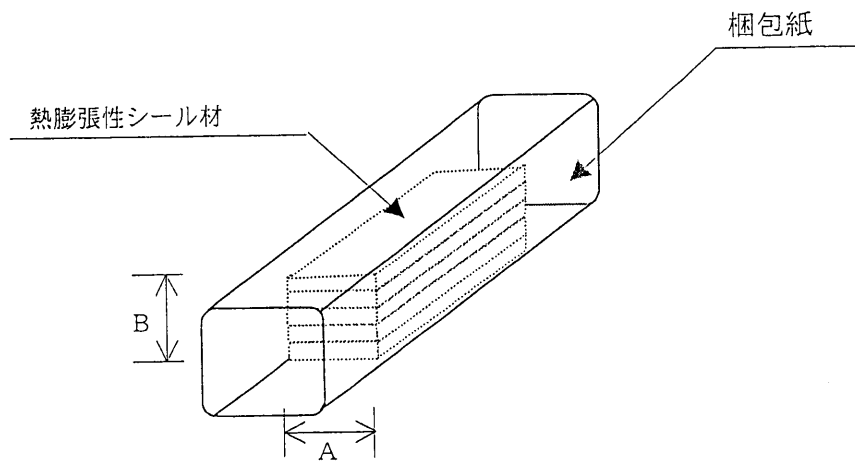
断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(別添-4)

〈熱膨張性シール材の詳細構造図〉

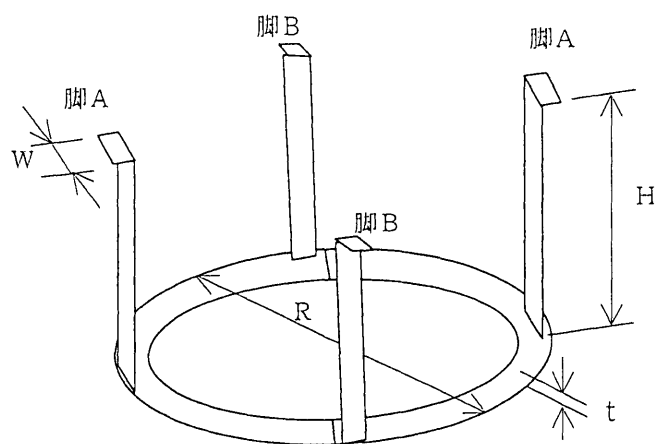
(寸法単位：mm)



熱膨張性シール材 構造

適合開口径 (mm)	A (mm)	B (mm)
55 以下	50 以上	21 以上
80 以下	50 以上	21 以上
110 以下	50 以上	21 以上
135 以下	75 以上	24 以上
160 以下	75 以上	24 以上

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり



金具 構造

単位：mm

適合開口径	R	t	H	W	備考
55 以下	開口径による	1.0 以上	50 以上	15 以上	脚Aのみ
80 以下		1.0 以上	50 以上	15 以上	脚Aのみ
110 以下		1.0 以上	50 以上	15 以上	
135 以下		1.0 以上	75 以上	15 以上	
160 以下		1.0 以上	75 以上	15 以上	

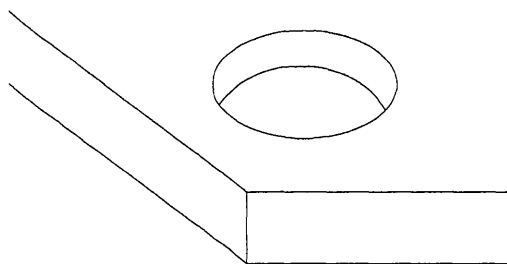
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

## 5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

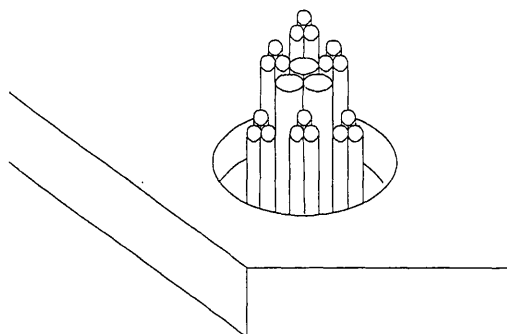
### ① 貫通孔を設ける

最大開口径を考慮し貫通穴を設ける。



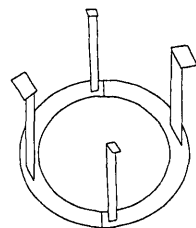
### ② ケーブルの配線

ケーブルを配線（通線）する。

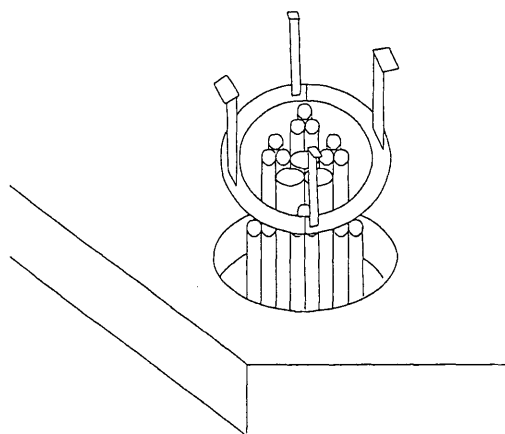


### ③ 金具の挿入

ケーブルを挟むように、熱膨張性シール材脱落防止用金具を組み、貫通穴に挿入する。金具は金具のつばで固定する。



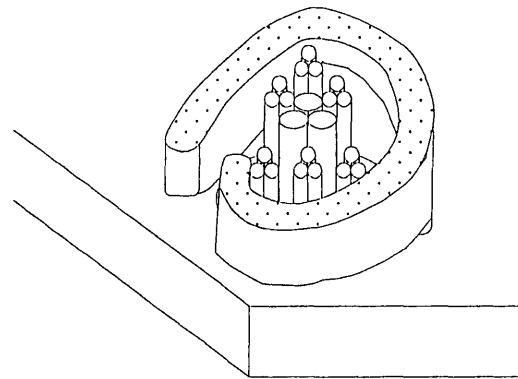
挿入する





④ 熱膨張性シール材の巻付け

ケーブルに熱膨張シール材を1周以上巻付ける。



⑤ 熱膨張性シール材の設置

ケーブルに巻付けたシール材を床内に75mm以上になるようにスライドさせる。  
(開口径110mm以下の場合には50mm以上)  
また、ケーブルと熱膨張シール材の間に隙間がないかを確認する。

